

#### 4. 生活介護事業所「京都市洛西ふれあいの里デイサービスセンター」 生活介護事業、特定相談支援事業所

##### (1) 総括

本年度も早々より緊急事態宣言が発出される等、新型コロナウイルスの影響が残る年となったが、当事業所の感染防止対策状況やコロナ禍での運営方針を随時発信する等、利用者やご家族に不安を抱かせないよう迅速な判断、対応に努めたことで利用を自粛される利用者は、数名のみとなった。利用者、ご家族、職員皆が一つのチームとなり、意識高く協力し合いながら感染症対策に努め、感染者なく事業を継続してきたが、令和4年1月末から2月初頭にかけては職員5名、利用者3名が新型コロナウイルス感染症に罹患し、延べ6日間、事業所を閉所する事案が発生するに至っている。当事案対応については、全利用者、職員を対象とした自主的なPCR検査の実施、及び、閉所期間中は在宅支援含め、利用者のケアに徹したことで、各利用者からの苦情等もなく、より信頼関係を深める結果となった。また、稼働率に関しては、コロナ禍の影響に加え、利用者のご逝去や入所施設移行に伴う退所、長期入院や身体状況の重度化(人工呼吸器使用)に伴い利用再開の目途が立たない方がおられたりと上半期の稼働率が80%台での推移となったが、新規利用者の受け入れや現員利用者の利用日数調整(増)を進め、下半期は90%台への回復の兆しが見られている。

そのような状況の中でも、現員利用者の高齢化や身体状況の重度化、新規利用者含む20歳前後の方や知的障害を主に持たれる方の受け入れ等に伴い、利用者の多様化も進んでおり、支援の個別化の必要性に加え、ニーズの実現に向けてより考えていく年となり、成果に向けては、各職員のスキルアップ、利用者のアセスメントに重点を置き、取り組んできた。

また、コロナ禍の為、実施の自粛や縮小をせざるを得ない日中活動もあり、個々の利用者のニーズを実現することが難しい部分もあったが、本年度は、“自粛する”のではなく、コロナ禍でも“実施できる”をテーマに日中活動の中身や取り組み方法を工夫し、個々の利用者のニーズを実現できるよう取り組んできた結果、職員の思考の転換も進み、活動内容にも新たな広がりを見せている。それには、コロナ禍を見据え、ICT導入の推進や施設内環境の整備を進めたことも有効であった。

今後もこの経験の蓄積を活かし、“with コロナ”を念頭に置いたさらなる事業展開を目指し、利用者の生活の安心と充実につなげていきたいと考えている。併せて、新規、現員共に医療的ケア(人工呼吸器等)が必要な利用者のニーズが増加している状況である。そのような方々のQOLの向上に加え、各職員の経験を経た自信の獲得やスキルアップに繋げるためにも、看護体制、支援体制、設備環境等の課題に向き合い、医療的ケアが必要な方々を受け入れることができるチーム、事業所を作っていくことが必要であり、実現に向けても検討していきたいと考えている。

(2) 職員体制 (令和4年3月末現在)

管理者 1名、サービス管理責任者(兼務) 1名、相談支援専門員(兼務) 2名、  
支援職員 16名(正規職員 6名、補助職員 3名、非常勤職員 7名)、  
看護師 1名(嘱託)、事務職員 1名(補助職員) (常勤換算 12.6人)

(3) 利用者の状況 (令和3年度末現在)

- ① 在籍人数 26名 (男性 14名・女性 12名)  
定員 20名 (令和3年度 新規入所者 2名・退所者 2名)  
年間実施日数 235日 (新型コロナウイルス感染症の関係で6日間閉所)  
延べ利用者数 4117名 稼働率 85.2%  
平均障害程度区分 5.76  
一日平均人 17.0人

② 年齢・男女別人数 (人) (歳)

年齢	20未満	30未満	40未満	50未満	60未満	65未満	65以上	計	平均年齢
男性	0	4	7	2	1	0	0	14	34.5
女性	1	5	1	3	0	1	1	12	33.4
合計	1	9	8	5	1	1	1	26	34.0

③ 起因疾患別人数 (人) ④ 居住区別 (人)

	男性	女性	計
脳性マヒ	5	6	9
脊髄損傷	0	0	0
脳血管障害後遺症	2	0	2
頭部外傷後遺症	1	0	2
その他の病気	6	6	13
計	14	12	26

行政区	西京区	右京区	計
男	9	5	14
女	10	2	12
計	19	7	26

⑤ 医療的ケアの対応

現在、医療的ケアが必要な方は2名。吸引、胃瘻、導尿を看護師が中心に行っている。内1名は、障害の重度化に伴い、人工呼吸器を使用しての生活が必要とされている。現在、ケアできる体制や設備環境が整っていない等、当該利用者が安全に安心して頂くには課題も多く、当事業所の利用再開には至っていない。

(4) 重点方針及び事業内容と取組結果

ア 利用者の多様化(年齢の幅、障害特性等)に伴う、支援の個別性の認知、利用者個々のニーズの把握、及び、支援体制の強化

現在、利用者の障害特性の多様化により、生活場面や活動場面においては、より支援の個別化を要する状況に至っている。

ニーズの把握に関しては、利用者一人一人がデイサービスでどのように過ごしたいのか、日々の関りや個別懇談会等の中で思いをお聴きし、把握に努めた。そのニー

ズを個別支援計画に落とし込み、どのように支援すれば個々の利用者の望みを叶えられるか皆で検討し実践している。また、重点的に取り組む内容を絞り、個別支援計画をシンプル化することで、ニーズの実現に向けての課題を明瞭にし、一つ一つモデルステップでの達成を重ねることで、利用者が望む生活の実現に繋げている。6ヶ月毎に個別支援計画作成とモニタリングを実施し、ニーズの実現状況の把握、及び、ニーズの実現への次なるステップの抽出を行ってきた。

併せて、職員一人一人の「気づき」の発信を大切に、毎日の反省会で報告する項目を設けた。「気づき」に関しては、ヒアリハットのみではなく、利用者の新たな姿(ストレングス)等の報告も大切にしておき、職員間で共有するようにした。

コロナ禍でも“実施できる”をテーマに日中活動の中身や取り組み方法を工夫するなかでは、機能維持等の必要な部分は継続しつつ、インターネット動画を活用した感性に働きかけるバーチャル体験(温泉動画鑑賞しながらの手浴、世界の催事動画を鑑賞しながらのパーティー等)や事業所内卓球バレー大会の開催、テイクアウト外出、移動カフェの誘致等、職員の思考の転換も進み、活動内容にも新たな広がりを見せている。今後もこの蓄積を活かし、さらなる展開に繋げていきたいと考えている。

また、個々の利用者のニーズの実現をより進めるためには、各職員のスキルアップ、及び、職員の補充等、支援体制の強化も必須事項と考えている。

#### イ チーム支援力を高め、安全、安心な生活に加え、利用者のQOL(生活の質)にも目を向けた支援の実現

今年度は、支援職員1名の入れ替わりがあったものの、体制は大きく変わらなかったことから、中堅から若手中心の2年目のチームとなり、各職員は、1年目の経験を活かし、それぞれが自身の役割を自覚し、自発的に取り組んだ1年となったと感じている。

チームとしては、中堅職員層の活性化(スキルアップ)が重要と考え、アプローチを行ってきた。各中堅職員に対しては、チームリーダーや新任職員の指導担当、計画相談の相談員として配置し、引率力、判断力、指導力の強化を図ると共に、中堅職員であることの意識や責任の認識構築も図っており、徐々にではあるが経験を蓄積し、成長に繋がっていると感じている。

新任職員1名に対しては、指導担当(OJT)を付け、4~6月の2ヶ月間を重点的に細かな指導を行った。また、利用者状況や支援方法等の情報共有を重視し、多くの情報を一度に伝えるのではなく、日々の反省会時に実践で得た細かな報告事項(質問や気づき、課題や結果等)を各自が挙げ、既存職員からアドバイス等の情報を受け取り、実践と振り返りを積み重ねることで効率的に安定化を進めた。この取り組みは、既存職員が“他者に伝える”と言う部分で、現状の支援の在り方を考えるきっかけにもなり、従来の支援の改善にも繋がる部分もあった。

また、各職員に対して、日々の業務から成功・スキルアップ・楽しみ等の体験から充実感を得れるよう業務配置も行い、達成に向けてフォローに努めた。

併せて、研修参加や資格取得等も各職員のキャリアパスや目標、抱えるケース等に沿って計画的に進めた結果として、10月以降の後期期間には、著しく成長や変化を感じる職員も現れ、チームのベースアップにも繋がったと感じており、職員会議やリ

スク・虐待防止委員会での若手職員の発言も活発になってきたことも、心強いものであった。新型コロナウイルス感染症対応等の経験も各職員にとっては成長の機会となり、将来に繋がるものとなったと感じている。

利用者支援に関しては、職員会議や日々の反省会等で個々の利用者支援の振り返りを行うことでアセスメントを深め、検討事項があがったケースについては、改善策を話し合い支援の見直しを行うことで、充実した生活を送って頂くことができています。

今年度は、利用者の身体状況の変化に加え、京都市西総合支援学校より新規利用者2名の受け入れもあり、利用者の障害特性の多様化がより進んだ年となった。

新規利用者2名に関しては、二十歳を迎える時期であり、学齢期とは異なった新しい生活を迎えられる。安心して新生活を過ごして頂く事に加え、これからの将来の生活を見据え、様々な経験を積み重ねる事での成長や生活の幅を広げて頂けるようサポートに努めた。特に障害特性やご本人の思いの理解を深めていくことを主眼に置き、上記同様、職員会議や日々の反省会等で報告(気づき)を挙げ、情報を蓄積し、フィードバックすることで、支援の安定化に繋がった。

また、昨年度に課題として挙げられた知的障害を主に持たれる利用者(療育手帳のみ)の方々へのサポートに関しても、生活を共にすることで支援者の理解も深まり、徐々に課題の解決も進んでおり、日々、笑顔の多い、充実した生活を送って頂く事にも繋がっている。

ウ 虐待防止への取り組みを強化。虐待防止計画のもと、虐待事案の発生を未然に防ぐと共に、職員のメンタルヘルスケアの充足にも繋げる。

令和3年度虐待防止計画を元に、進めている。基本として、所属長、支援リーダー、支援職員3名(新任職員含む)の5名の構成員からなるリスク・虐待防止委員会を月一回実施。リスクに関しては、ヒヤリハット事案、アクシデントレポートの再検証、及び、再発防止を講じており、そこには虐待防止に関する内容も含まれている。併せて、不適切と思われる支援の検証をはじめ、虐待防止研修の企画運営も実施し、挙げられた内容については、職員会議等にて周知している。

また、全職員を対象に虐待防止セルフチェックアンケートを年3回実施し、不適切な支援の早期発見、防止に繋がると共に、各職員の思いの発信の場としており、口頭では言いにくい意見を抽出することにも繋がっている。アンケート結果については、集計後、開示することで支援者の自己覚知と意識改善を図っている。また、アンケート結果から浮かび上がった課題に沿って内部研修を企画開催している。結果として、障害特性を理解していくことで、少しずつではあるが支援者の視点や支援の形も変化し、利用者も過ごしやすい環境になってきている。支援者の受容も広がることでお互いのストレス軽減にも繋がっているが、非常勤職員を含めた全体での虐待防止を含めた支援会議等を定期的に開催することが難しい為、周知、徹底への策を講じたいと考えている。内部研修に関しては4月に“かがやき研修―自閉症スペクトラムの方の薬物療法について”、“令和2年度京都総合福祉協会人権研修の視聴”を実施。また、摂食嚥下、及び、食から考える支援の適切性についての研修を次年度4月の開催に向けて準備を進めている。

また、近年では活発な利用者の受け入れも多くなっており、当該利用者の理解に対しては、至っていない点も多い為、京都府強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)や京都リハビリセンターで開催された“精神障害の基礎知識”“強度行動障害の理解と支援の実際”)等の外部研修の受講も進めており、研修転移にも繋げている。

職員のメンタルヘルスに関しては、上記のように、支援でのストレス部分に対する軽減策は講じてきている。併せて、職員関係は良好であり、それぞれが対話し、悩み相談等も行えているようで、現在、深刻な状況等の報告は挙がっていない。しかし、支援以外の部分では、新型コロナウイルス感染症に罹患した職員に対して、定期的に電話にて様子確認を行っていたものの、療養期間中の閉鎖された生活により、精神的疲労をきたすケースも確認された為、今後も職務復帰後のケアも含め、留意していく必要があると考えている。

エ ICT導入の推進。タブレット等による記録業務の効率化やリモート研修等の参加の推進、及び、利用者支援ツールとしての活用を段階的に進めていく。

ICT 関係に関しても昨年度に事業所内の Wi-Fi 環境を整備し、タブレット(2 台)、ノート PC(1 台)導入しているが、本年度も新規にタブレットを 1 台追加導入している。結果として、事務業務や各種アンケート(google フォーム)の効率化、WEB 研修(ZOOM 等)の参加率向上、及び、利用者支援ツール(バイタルデータ管理、動画視聴、コミュニケーションツール、訓練動画等による支援マニュアルの整備、ご家族への生活風景の提示等)への活用が有効なものとなっている。今後も活用の幅を広げていけるようテストケースも含め、取り組んでいきたいと考えている。

オ 事業予算の人件費を拡充。職員(補助・非常勤)の増員を目指し、利用者支援の充実(個別ケア対応)、職員の労務状況改善(有給休暇取得促進等)に繋げる。

職員体制に関しては、様々な媒体を活用し、本年度は、支援職非常勤職員 2 名の採用に至っている。内 1 名は、大学生(週 1 日/8 時間)であり、将来のイメージを描き、法人の採用試験受験に繋げて頂けるよう職場体験も兼ねて職務にあたって頂いているところである。2 名共に、長期的に従事して頂けるよう“利用者の理解”“支援への意識”と言う部分を主に伝達しながら職務にあたって頂いている。

しかし、現状としては、支援職員の拡充は愚か、令和 2 年度末減員分の補充にも至っておらず、各課題(有給取得による現場支援への影響の改善、休憩時間の安定化、職員の気持ちのゆとり(事故・虐待防止等)、事務業務の円滑化、相談支援事業の遂行)の改善に向けて、支援職員の増員に継続して取り組んでいく必要があると感じている。(国の配置基準を上回る体制は維持。)

カ 新型コロナウイルス感染対策を徹底し、事業継続に努める。併せて、稼働率を安定させ、経営の安定化を図る。目標としては稼働率 97%以上を目指す。

令和 3 年度は新規利用者 1 名の受け入れを行い、利用契約者数は 4 月当初、定員 20 名に対して 27 名である。令和 3 年 7 月に利用者 1 名が逝去され、令和 3 年 11 月には利用者 1 名が東山介護医療院への入所が決定したが、令和 3 年 8 月より新規利用者 1 名の受け入れを行った為、令和 4 年 3 月末時点で 26 名の契約者数となった。

稼働率に関しては、利用者の長期入院や逝去、施設入所、身体状況の重度化(人工呼吸器)に伴う利用再開未定等の関係で、上半期は80%台の推移となったが、新規利用者1名の受け入れや現員利用者の利用日数調整(ニーズの実現)等を進め下半期は90%台には回復するも、コロナ禍に伴う利用自粛等も重なり、大幅な向上には至らなかった。年間を通しては、平均87.5%となっている。(令和2年度:97.5%)

尚、利用者の増員に関しては、支援職員(現場)の意見も聞き取りながら、理解を得た上で進めたことから、進捗状況は遅れたものの、混乱や不満等の意見が出ることはなかった。

令和4年1月末から発生した新型コロナウイルス感染に関しては、在宅支援含め、利用者のケアに徹したことで、各利用者からの苦情等もなく、ご理解を頂く結果となり、給付費収入にも大きく影響する事もなかった。

また、所内新型コロナウイルス感染症発生に伴い、改めて職員 の感染症対策に対する意識の定着にも取り組み、支援中のフェイスシールド着用の徹底等をはじめ、感染対策をより強化するに至っている。その他、当事業所嘱託医による新型コロナワクチン接種についても、ふれあいの里診療所協力のもと、希望利用者、職員に対して実施することもできている。

キ 社会福祉法人としての役割を考え、地域との交流や繋がりを大切にし、公益的な取り組みを通して、地域に開かれた施設を目指す。

新型コロナウイルス感染状況が一定落ち着いている期間に関しては、京都市立西総合支援学校より福祉施設体験実習1名の受け入れを行い、卒業後の将来を描くきっかけの一つとなるよう関わらせて頂いた。福祉施設体験実習に来られた1名に関しては、令和4年度より当事業所を利用されるに至っている。

その他、例年行っている近隣保育園との合同クリスマスコンサートについても、中止となったが、紙漉き活動にて利用者が協力し合い作成されたクリスマスカードを保育園まで届けさせて頂くと、後日園児の方々からもメッセージカードを届けてくださり、コロナ禍でもできる交流の一つの形として繋ぐことができている。

ク 特定相談支援事業の実施。利用者及び家族が安心して地域で生活ができるよう、計画相談を行い、他機関とも連携しながら、生活全般を支える。

計画相談利用者18名。計画相談18件、モニタリング36件実施。相談支援専門員が中心となり、利用者やご家族の要望をしっかりとお聴きし、在宅生活を維持できるように、関係機関と協力し合いながら取り組むことができている。

本年度も、ご利用者、ご家族の身体状況の変化や高齢化に伴い、居宅支援やショートステイ利用拡充の要望が多く、ニーズを充足できるよう関係機関との連携を進めた。しかし、重度心身障害を持たれる方が利用できるショートステイやグループホーム等の社会資源が少なく、現状、サービスを繋げることができないケースも多く、苦慮している。

その他、障害の重度化に伴い人工呼吸器を使用している生活が必要となられたご利用者に関して、現在、生活介護サービスが利用できない状況である為、利用再開に向けての調整、及び、在宅生活を安心して、安全に送って頂けるよう医療機関含む関係

機関との連携に努めた。

引き続き、ご利用者の生活全体を見据え、生活の幅が広がるようそれぞれができる役割を認識し、他事業所と連携しながら、ご利用者、ご家族共に安心して生活できる環境を整えられるように相談支援を継続していく必要がある。次年度には、新規1名の契約を予定している。

## (5) 情報

### ア 情報発信、開示の状況

トピックスの年1回発行(行事などの写真が中心の利用者家族向け広報誌)した。また、タブレット等を活用し、個別懇談会時等にご家族にご本人の写真や動画等を見て頂くなど、当事業所での様子をお伝え出来るよう工夫した。

### イ 利用者満足度、苦情解決の状況

大きな苦情には至っていないが、ご利用者・ご家族からの要望、指摘は日々あり、職員間での周知の徹底、及び、ご利用者・ご家族への丁寧な対応を心掛けている。

また、年度末には希望者に対して、個別懇談(本人・家族)を実施している。本年度はコロナ禍の関係もあり、5組のみの参加となったが、その他、ご利用者については、送迎時や電話等での対応とさせて頂いた。内容に関しては、令和3年度のサービス計画の実施状況・令和4年度に向けての要望などの聞き取りを行い、率直なご意見を伺うことが出来た。また、満足度調査も行い、すべての方から「大変満足している」「満足している」という回答を頂いている。

何よりも、多くのご家族より“ご利用者本人、ご家族の気持ちに寄り添い、対応を考え行動する姿勢”を評価して頂けたことが、成果であると考えている。

### ウ リスク管理の状況と課題

アクシデントとしてはご利用者の怪我(転倒)、公用車事故等、それぞれ件数は少ないが、発生している。その都度レポートを提出し、口頭や回覧にて周知すると共に、毎日の反省会や毎月の職員会議等で再発防止について確認している。

インシデントレポートに関しては、毎日の反省会の際にヒヤリはつとを報告する時間を設けており、日々の支援の中での気づきを大切に、タイムリーな情報共有、事故防止に努めている。また、毎月、リスク・虐待防止委員会を開催し、前月分のレポートを再検証すると共に、原因や対策を講じている。

## (6) 育成

ア 実習生・ボランティアの受け入れに関しては、コロナ禍でほとんどが中止となった。

### <実習生>

福祉施設体験実習 1校(京都市西総合支援学校高等部) 1名 延べ日数 2日

※京都市新任職員研修、介護等体験実習、チャレンジ体験実習、福祉体験学習会(桂坂小学校)は、中止。

### <ボランティア>

桂坂女性会(紙芝居、オカリナ演奏・例年12回(月1回))、Joy&Join(ゴスペルグループ・例年1回)の受け入れを行っていたが、コロナ禍の影響もあり、本年度

は中止となっている。ボランティア延べ人数 0 名。

<喀痰吸引 3 号研修(実地研修・特定利用者)>

当事業所利用者の関係居宅支援事業所(他法人)ヘルパー(5名)に対し、当事業所看護師による喀痰吸引の実地研修の受け入れを行い、随時、研修を進めていたが、当該利用者の身体状況の重度化に伴い、現在、中断中である。

## イ 職員育成

(ア) 職員一人一人の成長を促す事を目的とし、各職員には、年度初めに自分自身がどのような目標を持ってこの 1 年間仕事をしていくのかを目標シートに記してもらった。この作業は、自身を見つめなおし、課題を整理、意識付けることに有効に働いたと感じている。また、半期には、ヒアリングを実施し、年度初めに挙げた目標の評価(振り返り)を行うことで、課題や目標の再設定を行い、意識の再認識を図った。目標に対しては、実現に向けての助言やサポートも行い、達成することでの成長や自信の獲得、モチベーションの維持、向上に繋げていけるよう努めた(スモールステップを積み重ねる)。また、職員から上がった“〇〇したい。”と言う思いに対しては、すべて承認し、実現できるようにフォロー、バックアップも実施。実施に向けては、“楽しい”だけではなく、“意図”や“実現後の達成イメージ”も考えさせ、自分の思いをより明確にすることで、達成後(成功体験)の得る効果の増幅を図った。

研修参加や資格取得等に関しても、各職員の勤続年数や目標、抱えるケース等に沿って計画的に進めたことで、令和 3 年 10 月以降の後期期間には、著しく成長や変化を感じる職員も現れている。

結果として、職員それぞれが自身の役割を自覚し、担当ケースへの取り組みや各種会議等での発言・発信も活発になってきたことは、心強く感じる部分であり、チームの活性化にも繋がったと考えている。

(イ) 虐待防止研修、救命救急講習等、利用者の人権や命を守る上で必要な研修の実施

(ウ) 次世代リーダー研修、中堅職員研修、新任職員研修等、階層ごとの研修に参加

(エ) 担当ケースに合わせた外部研修(強度行動障害、精神障害、医療的ケア等)に参加

(オ) 相談支援従事者初任者研修 1 名受講修了(事業所内修了者計 4 名)

修了後は、相談員としての業務も担い、意識高く、取り組む姿が見られている。

※資格研修受講に関しては、スキルアップ(出来る業務が増える)することでの、モチベーションの向上も図っている。

## (7) 地域との交流・連携の状況

ア コロナ禍の為、例年実施されていた“洛西ふれあいの里秋祭り”“ふれあいの里協会冬フェスタ”“京都市立西総合支援学校芝生祭り”“法人関係施設合同での生産展”“桂坂小学校 5 年生との福祉体験学習会”“桂坂保育園園児とのクリスマスコンサート交流会”等の行事や地域ボランティアの受け入れ(桂坂女性会、紙芝居サーク

ル“こもれび”等)は、すべて中止となり、地域との交流を深める機会を積極的に持つことが出来なかった。他、地元保育園、総合支援学校との交流は、重点方針⑦に記載。

イ 春と秋には地域のクリーンデイに参加、施設周辺の草刈りやごみ回収を実施した。

## (8) 施設整備の状況

ア 本年度は、ご利用者の生活に関わるような大きな不良個所は確認されず、修繕箇所はなかった。新設として、コロナ禍に伴う室内3蜜状態回避の為、中庭にテラスを設置し、屋外活動スペースを拡充に繋げた。ご利用者の活動スペースとして活用している。また、屋内活動スペースの拡充に対しても、旧喫煙所を改修し、多目的ルームを設置し、リラクゼーション等の活動での使用や医療的ケア、面談等、個別対応時に活用している。その他、室内床面積の確保、及び、細かな区画分離を目的に、作業室内アコーディオンカーテン(間仕切り)のロールスクリーン化、インターネット接続可能な大型テレビ(天吊り)の設置等も実施している。

特に、大型テレビ(天吊り)の設置は、スヌーズレンや映像等での利用者支援ツールや職員研修(動画視聴)等での活用にも有効であった。

イ 冬期の寒さ対策については、職員室、食堂、作業室に新規にガス栓を引き、各所にガスファンヒーターを設置したことで、床冷えの改善もできている。

ウ 介護補助機器導入に関しては、介護器具業者より“マッスルスーツ”のデモ機をレンタルし、試行するも導入には至らなかった。現在は、スペースの関係でストレッチャー(昇降台)が設置できない多目的トイレに“パブリックシート(折り畳み式ストレッチャー)”の設置を検討している。また、その他の介護補助器具についても、介護器具業者との相談は継続し、当事業所でも機能する器具を探しているところである。



## 京都市洛西ふれあいの里デイビスセンター区分 資金収支計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
収 入	障害福祉サービス等事業収入	[ 83,560,000]	[ 82,248,439]	[ 1,311,561]
	自立支援給付費収入	( 77,800,000)	( 76,559,247)	( 1,240,753)
	介護給付費収入	77,280,000	76,021,678	1,258,322
	計画相談支援給付費収入	510,000	537,539	△ 27,539
	特定費用収入	( 1,990,000)	( 1,655,592)	( 334,408)
	特定費用収入(非課税)	1,990,000	1,655,592	334,408
	その他の事業収入	( 3,770,000)	( 4,633,600)	(△) 263,600
	補助金事業収入(公費) 不課税	3,630,000	3,881,000	△ 251,000
	受託事業収入(公費) 課税	170,000	128,700	△ 18,700
	その他の事業収入(課税)	30,000	100	26,900
	その他の事業収入(不課税)	0	23,800	△ 23,800
	その他の収入	[ 750,000]	[ 722,780]	[ 27,220]
	利用者等外給食費収入	750,000	717,780	32,220
	雑収入	( 0)	( 5,000)	(△) 5,000
雑収入(不課税)	0	5,000	△ 5,000	
事業活動収入計(1)		84,310,000	82,971,219	1,338,781
事 業 活 動 に よ る 収 支	人件費支出	[ 61,520,000]	[ 58,529,751]	[ 2,990,249]
	職員給料支出	( 32,320,000)	( 32,213,209)	( 106,791)
	職員給料支出(課税)	880,000	1,078,916	△ 198,916
	職員給料支出(不課税)	31,440,000	31,134,293	305,707
	職員賞与支出	7,020,000	6,650,380	369,620
	非常勤職員給与支出	( 12,990,000)	( 10,633,075)	( 2,356,925)
	非常勤職員給与(課税)	470,000	407,142	62,858
	非常勤職員給与(不課税)	12,520,000	10,225,933	2,294,067
	退職給付支出	1,230,000	1,243,442	46,558
	法定福利費支出	7,900,000	7,789,645	110,355
	事業費支出	[ 8,240,000]	[ 8,275,181]	[△] 35,181
	給食費支出	1,870,000	1,814,001	55,999
	保健衛生費支出	80,000	228,321	△ 228,321
	教養娯楽費支出	100,000	45,365	54,635
	水道光熱費支出	( 1,200,000)	( 1,194,635)	( 5,365)
	電気料	870,000	257,846	72,154
	ガス料	520,000	564,306	△ 74,306
	上下水道料	310,000	302,483	7,517
	消耗器具備品費支出	2,230,000	2,002,014	227,986
	保険料支出	510,000	505,530	4,470
	賃借料支出	220,000	287,227	△ 47,227
教育指導費支出	710,000	611,552	98,448	
車両費支出	( 1,300,000)	( 1,541,536)	(△) 241,536	
燃料油費	1,300,000	1,417,916	△ 117,916	
その他の車両費	0	123,620	△ 123,620	
雑支出	( 40,000)	( 5,000)	( 35,000)	

京都市洛西ふれあいの里デｲﾝｽﾞセンター区分 資金収支計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位：円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
	雑支出(課税)	50,000	0	50,000
支	雑支出(不課税)	23,000	5,000	18,000
出	意欲費支出	[ 7,420,000]	[ 5,859,682]	[ 1,560,318]
	福利厚生費支出	( 420,000)	( 481,296)	(△) 61,296
	福利厚生費(課税)	260,000	419,697	△ 159,697
	福利厚生費(不課税)	160,000	61,599	98,401
	旅費交通費支出	70,000	19,480	50,520
	研修研究費支出	50,000	27,580	22,420
	事務消耗品費支出	430,000	325,913	104,087
	印刷製本費支出	110,000	50,739	59,261
	燃料費支出	10,000	0	10,000
	修繕費支出	1,790,000	523,898	1,266,102
	通信運搬費支出	230,000	371,178	△ 141,178
	会議費支出	10,000	500	9,500
	広報費支出	450,000	389,414	60,586
	業務委託費支出	2,780,000	2,950,838	△ 170,838
	手数料支出	170,000	62,144	107,856
	保険料支出	0	△ 1,500	1,500
	租税公課支出	120,000	109,700	10,300
	保守料支出	540,000	542,372	△ 2,372
	渉外費支出	10,000	2,500	7,500
	諸会費支出	( 110,000)	( 1,000)	( 109,000)
	諸会費支出(課税)	40,000	0	40,000
	諸会費支出(不課税)	70,000	1,000	69,000
	雑支出	( 60,000)	( 22,000)	( 38,000)
	雑支出(課税)	50,000	22,000	28,000
	雑支出(不課税)	10,000	0	10,000
	支払利息支出	[ 30,000]	[ 15,387]	[ 14,613]
	その他の支出	[ 430,000]	[ 439,600]	[△] 9,600
	利用者等外給食費支出	430,000	439,600	△ 9,600
	事業活動支出計(2)	77,640,000	73,119,801	4,520,199
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	6,670,000	9,851,518	△ 3,181,518
施				
取				
入				
施	施設整備等収入計(4)	0	0	0
設				
整	同定資産取得支出	[ 2,290,000]	[ 2,348,249]	[△] 58,249
備	建物取得支出	730,000	893,300	1,163,300
等	構築物取得支出	1,090,000	1,325,749	△ 235,749
に	器具及び備品取得支出	500,000	324,500	175,500
よ	ファイナンス・リース債務の返済支出	[ 280,000]	[ 191,573]	[ 88,427]
支				
る				
出				
取				

## 京都市洛西ふれあいの里デイサービスセンター区分 資金収支計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)
支	施設整備等支出計(5)	2,570,000	2,534,822	35,178
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 2,570,000	△ 2,534,822	△ 35,178
そ の 他 の 活 動 に よ る 収 入	積立資産取崩収入	[ 7,300,000]	[ 7,300,000]	[ 0]
	人件費積立資産取崩収入	2,000,000	2,000,000	0
	修繕積立資産取崩収入	4,800,000	4,800,000	0
	備品等購入積立資産取崩収入	500,000	500,000	0
	その他の活動収入計(7)	7,300,000	7,300,000	0
支 出	積立資産支出	[ 0]	[ 2,500,000]	[△ 2,500,000]
	人件費積立資産支出	0	2,500,000	△ 2,500,000
	拠点区分間繰入金支出	[ 11,400,000]	[ 11,390,000]	[ 10,000]
	その他の活動支出計(8)	11,400,000	13,890,000	△ 2,490,000
支	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 4,100,000	△ 6,590,000	2,490,000
	予備費支出(10)	0	0	0
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	726,796	△ 726,796
	前期末支払資金残高(12)	10,895,150	10,895,150	0
	当期末支払資金残高(11)+(12)	10,895,150	11,621,946	△ 726,796

京都市洛西ふれあいの里デｲｰﾋﾞﾝｸﾞｾﾝﾀｰ区分 事業活動計算書

(白) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位：円)

勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
障害福祉サービス等事業収益	[ 82,248,439]	[ 96,571,999]	[△ 14,323,560]
自立支援給付費収益	( 76,559,247)	( 87,681,263)	(△ 11,122,016)
介護給付費収益	75,021,678	87,222,613	△ 12,200,935
計画相談支援給付費収益	627,669	458,650	169,019
特定費用収益	( 1,655,592)	( 1,852,631)	(△ 197,039)
特定費用収益(課税)	0	35,131	△ 35,131
特定費用収益(非課税)	1,655,592	1,859,500	△ 203,908
その他の事業収益	( 4,333,600)	( 6,998,105)	(△ 2,664,505)
補助金事業収益(公費)不課税	3,881,000	6,946,655	△ 3,065,655
委託事業収益(公費)課税	128,700	26,400	102,300
その他の事業収益(課税)	100	200	△ 100
その他の事業収益(不課税)	23,800	24,850	△ 1,050
経常経費者附金収益	[ 0]	[ 63,000]	[△ 63,000]
サービス活動収益計(1)	82,248,439	96,640,399	△ 14,391,960
人件費	[ 58,449,751]	[ 57,055,764]	[ 1,393,987]
職員給料	( 32,213,209)	( 28,965,295)	( 3,247,914)
職員給料(課税)	1,078,916	699,920	378,996
職員給料(不課税)	31,134,293	28,265,375	2,868,918
職員賞与	4,230,380	4,252,960	△ 22,580
賞与引当金繰入	2,340,000	2,420,000	△ 80,000
非常勤職員給与	( 10,633,075)	( 12,707,133)	(△ 2,074,058)
非常勤職員給与(課税)	407,142	397,540	9,602
非常勤職員給与(不課税)	10,225,933	12,309,593	△ 2,083,660
退職給付費用	1,243,442	1,294,334	△ 50,892
法定福利費	7,789,645	7,416,042	373,603
事業費	[ 8,275,181]	[ 7,860,912]	[ 414,269]
給食費	1,374,001	1,943,988	△ 569,987
保健衛生費	269,321	327,876	△ 58,555
教養娯楽費	45,365	121,012	△ 75,647
水道光熱費	( 1,194,635)	( 1,059,983)	( 134,652)
電気料	237,846	274,962	△ 37,116
ガス料	554,308	473,698	80,610
上下水道料	352,483	311,323	41,160
燃料費	0	768	△ 768
消耗器具備品費	2,002,014	1,725,724	276,290
保険料	505,530	553,970	△ 48,440
賃借料	287,227	202,040	85,187
教育指導費	611,532	435,182	176,350
車両費	( 1,541,536)	( 1,480,371)	( 61,165)
燃料油費	1,417,916	1,112,354	305,562
その他の車両費	123,620	367,957	△ 244,337
雑費	( 5,000)	( 0)	( 5,000)

## 京都市洛西ふれあいの里デｲｰﾋﾞﾝｸﾞｽﾍﾞﾝﾀｰ区分 事業活動計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
	雑費(不課税)	5,000	0	5,000
	事務費	[ 5,859,682]	[ 5,796,809]	[ 62,873]
	福利厚生費	( 481,296)	( 575,347)	(△) 94,051
	福利厚生費(課税)	419,697	469,267	△ 49,570
	福利厚生費(不課税)	61,599	106,080	△ 44,481
	旅費交通費	19,480	3,750	15,730
	研修研究費	27,560	37,080	△ 9,520
	事務消耗品費	525,913	314,974	210,939
	印刷製本費	80,739	90,602	△ 9,863
	修繕費	523,898	918,608	(△) 394,710
	通信運搬費	371,173	299,012	72,161
	会議費	550	770	△ 220
	広報費	359,414	273,982	85,432
	業務委託費	2,930,838	2,503,949	426,889
	手数料	62,144	81,167	△ 19,023
	保険料	△ 1,500	0	△ 1,500
	租税公課	109,700	155,000	(△) 45,300
	保守料	542,972	505,372	37,600
	渉外費	2,500	2,500	0
	諸会費	( 1,000)	( 4,630)	(△) 3,630
	諸会費(課税)	0	630	△ 630
	諸会費(不課税)	1,000	4,000	△ 3,000
	雑費	( 22,000)	( 23,166)	(△) 1,166
	雑費(課税)	22,000	23,166	△ 1,166
	減価償却費	[ 4,448,701]	[ 4,336,279]	[ 112,422]
	国庫補助金等特別積立金取崩額	[△ 288,559]	[△ 150,971]	[△ 137,588]
	サービス活動費用計(2)	76,744,756	74,828,793	1,915,963
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	5,503,883	21,712,205	(△) 16,208,323
サービス活動外増減の部	その他のサービス活動外収益	[ 722,780]	[ 596,160]	[△] 126,620
	受入研修費収益	0	5,500	△ 5,500
	利用者等外給食収益	717,780	778,300	(△) 60,520
	雑収益	( 5,000)	( 12,360)	(△) 7,360
	雑収益(不課税)	5,000	12,360	△ 7,360
	サービス活動外収益計(4)	722,780	896,160	(△) 173,380
	支払利息	[ 15,887]	[ 23,888]	[△] 8,001
	その他のサービス活動外費用	[ 438,600]	[ 476,350]	[△] 37,750
	利用者等外給食費	438,600	476,350	△ 37,750
	サービス活動外費用計(5)	454,487	500,238	△ 45,751
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	268,293	395,922	(△) 127,629
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	5,772,176	22,108,127	(△) 16,335,951
	固定資産売却益	[ 0]	[ 64,619]	[△] 64,619

## 京都市洛西ふれあいの里デｲｰビスセンター区分 事業活動計算書

(自) 2021年 4月 1日 (至) 2022年 3月31日

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
特別増減の部	収 車輦運搬具売却益	0	64,619	△ 64,619
	益 拠点区分間固定資産移管収益	[ 1]	[ 133,585]	[△ 133,585]
	特別収益計(8)	1	198,205	△ 198,204
	固定資産売却損・処分損	[ 1]	[ 0]	[ 1]
	器具及び備品売却損・処分損	1	0	1
	費 国庫補助金等特別積立金積立額	[ 0]	[ 1,123,688]	[△ 1,123,688]
	拠点区分間繰入金費用	[ 11,390,300]	[ 13,395,000]	[△ 2,005,000]
	拠点区分間固定資産移管費用	[ 1]	[ 0]	[ 1]
	その他の特別損失	[ 2,719,695]	[ 0]	[ 2,719,695]
	特別費用計(9)	14,109,697	14,518,688	△ 408,991
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 14,109,696	△ 14,320,483	△ 210,787	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		△ 3,338,220	7,787,545	△ 16,125,765
前期繰越活動増減差額(12)		34,995,671	59,508,126	△ 24,512,455
繰越当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		26,657,451	67,295,671	△ 40,638,220
活動増減の部	基本金取崩額(14)	[ 0]	[ 0]	[ 0]
	その他の積立金取崩額(15)	7,300,000	[ 0]	[ 7,300,000]
	人件費積立金取崩額	2,000,000	0	2,000,000
	修繕積立金取崩額	4,800,000	0	4,800,000
	備品等購入積立金取崩額	500,000	0	500,000
	その他の積立金積立額(16)	[ 2,500,000]	[ 22,300,000]	[△ 29,800,000]
	人件費積立金積立額	2,500,000	0	2,500,000
修繕積立金積立額	0	2,300,000	△ 2,300,000	
施設整備等積立金積立額	0	30,000,000	△ 30,000,000	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		31,457,451	34,995,671	△ 3,538,220

京都市洛西ふれあいの里デイサービスセンター区分 貸借対照表

2022年 3月31日現在

社会福祉法人京都総合福祉協会

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	26,559,544	26,314,507	△ 505,588	流動負債	16,346,413	15,720,945	△ 1,364,552
現金預金	6,333,783	6,383,814	1,419,869	事業未払金	5,307,849	5,149,075	159,771
事業未収金	14,156,161	14,458,065	△ 295,952	その他の未払金	94,047	95,609	△ 1,659
未収補助金	2,069,000	5,678,600	△ 1,629,500	1年以内返済予定リース債務	119,416	191,538	△ 72,173
				預り金	367	428	△ 71
				職員預り金	84,049	85,899	△ 1,852
				拠点区分間借入金	7,350,700	8,778,456	△ 1,937,756
				貸付引当金	2,340,000	2,420,000	△ 80,000
固定資産	81,920,567	91,445,706	△ 9,625,148	固定負債	17,617	137,917	△ 119,400
その他の固定資産	81,820,567	91,445,706	△ 9,625,148	リース債務	17,617	137,917	△ 119,400
建物	11,967,342	15,164,124	△ 3,196,782	負債の部合計	16,364,030	16,867,862	△ 1,503,832
構築物	1,261,192	0	1,261,192				
運搬設備	7,753,670	10,196,176	△ 2,442,506	純資産の部			
器具及び備品	2,169,021	2,552,100	△ 265,479	国庫補助金等特別積立金	1,008,020	1,296,579	△ 288,559
有形リース資産	13,878	34,938	△ 21,060	国庫補助金等特別積立金	1,008,020	1,296,579	△ 288,559
無形リース資産	123,054	293,667	△ 170,613	その他の積立金	68,500,000	68,360,000	△ 4,900,000
積立資産	53,502,000	53,300,000	△ 4,800,000	その他の積立金	68,500,000	68,360,000	△ 4,900,000
人件費	2,592,000	2,000,000	500,000	人件費	2,500,000	2,000,000	500,000
修繕	19,500,000	24,800,000	△ 4,800,000	修繕	19,300,000	24,600,000	△ 4,800,000
備品等購入	6,230,000	6,700,000	△ 500,000	備品等購入	6,200,000	6,700,000	△ 600,000
施設整備等	30,000,000	30,000,000	0	施設整備等	30,300,000	30,000,000	300,000
差入保証金	30,000	30,000	0	次期繰上活動増減差額	31,467,451	24,095,671	△ 3,653,220
長期前払費用	64,700	64,700	0	(うち当期補助金繰上額)	△ 8,338,220	7,787,545	△ 16,125,755
資産の部合計	106,929,501	116,460,212	△ 10,130,711	純資産の部合計	30,965,471	93,692,760	△ 4,425,779
				負債及び純資産の部合計	106,329,501	116,460,212	△ 10,130,711

## 計算書類に対する注記（京都市洛西ふれあいの里デイサービスセンター）

## 1. 重要な会計方針

## (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

◇ 満期保有目的の債券：償却原価法（定額法）

## (2) 固定資産の減価償却の方法

◇ 有形固定資産：定額法による減価償却を実施する。

- ・平成19年9月31日以前に取得した有形固定資産については残存価額を取得価額の10%として償却を行い、耐用年数到来後も使用する場合には償却価額(1円)まで償却する。
- ・平成19年4月1日以降に取得したものについては、減価償却累計額が当該資産の取得価額から残存価額(1円)を控除した金額に達するまで償却する。

◇ 無形固定資産：定額法による減価償却を実施する。

- ・残存価額は0円とし、償却累計額が当該資産の取得価額に達するまで償却する。

## ◇ リース資産

- ・ファイナンス・リース取引：所有権移転外ファイナンスリース取引に係るリース資産。リース期間を耐用年数とし、残存価額を等とする定額法によっている。ただし、重要性が乏しいものについては賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

## (3) 引当金の計上基準

## ◇ 賞与引当金

- ・職員に対する賞与の支給に備えるため、当該支給予定額のうち当年度に帰属する期間に相当する金額を賞与引当金に計上している。

## ◇ 徴収不能引当金

- ・なし

## (4) 消費税等の会計処理

- ・消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

## 2. 重要な会計方針の変更

該当なし

## 3. 採用する退職給付制度

## ◇ 法人独自の退職給付制度

- ・社会福祉施設職員等退職手当共済法の適用を受けることが出来ない職員に対して支給される額で、年度末における同共済法の定める所により算出し、交付される額に準じて算出した額による

## ◇ 京都社会福祉事業企業年金基金の実施する確定給付企業年金制度

## ◇ 独立行政法人福祉医療機構の実施する退職給付制度

## 4. 拠点が作成する計算書類とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類等は以下のとおりになっている。

(1) 京都市洛西ふれあいの里デイサービスセンター拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）

(2) 京都市洛西ふれあいの里デイサービスセンター拠点区分事業活動明細書（別紙3⑩）

- ア 生活介護事業
- イ 特定相談支援事業

(3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3⑪）は省略している。

## 5. 基本財産の増減の内容及び金額

該当なし

## 6. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

7. 担保に供している資産

該当なし

8. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	23,118,960	11,143,718	11,967,342
構築物	1,325,749	64,557	1,261,192
車両運搬具	17,588,881	9,815,011	7,753,870
器具及び備品	4,634,414	3,527,793	1,106,621
有形リース資産	458,704	445,726	13,978
合計	47,104,698	26,001,805	21,102,893

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

(貸借対照表上、間接法で表示している場合は記載不要。)

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位：円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
該当なし			
合計			

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに繰替価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに繰替価額、時価及び評価損益は以下のとおりである。

(単位：円)

種類及び銘柄	繰替価額	時価	評価損益
該当なし			
合計			

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び

純資産の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし